

DOYOU

さいたま

同友会の三つの目的 / よい会社 よい経営者 よい経営環境をめざす



記念講演講師 奥山敏康氏
(株)アイワード代表取締役社長



代表理事挨拶
太田久年代表理事

記念講演紹介
奥津雅史副代表理事

謝辞
横山由紀子副代表理事

司会
深町智之氏 (むさし野地区会)

2021年度全県経営研究集会在2022年2月15日にオンラインで開催されました。(最終登録者数は392名)。
今年度は開催直前に、新型コロナウイルス感染状況が悪化し、基地局での参加者数削減や抗原検査実施など、想定外の対応も余儀なくされました。

一方で、十分な学びの質を確保できるよう、記念講演、各分科会での工夫も見られました。

今号では各分科会の概要と実行委員の総括を報告します。(P2~P7参照)

2022 - 4 April
VOL.527 毎月1日発行

2021年度 全県経営研究集会
新世界 変わらぬ想いで進化しよう!
~広げよう学びの輪 磨こう経営の力~

<https://www.saitama.doyu.jp>



特集

2021年度

全県経営研究集会

新世界 変わらぬ想いで進化しよう!

～広げよう学びの輪 磨こう経営の力～(2月15日(火)オンライン開催)

2022年2月15日、昨年に引き続きリモートにて開催された2021年度全県経営研究集会。

分科会の数は過去最多の8分科会となり、人を生かす経営の総合実践や、地域づくり、仕事連携などの多岐にわたる学び合いが行われました。

今号では、各分科会の記録と、座長総括を掲載します。

全研実行委員長 高橋浩一氏

副代表理事 大宮中央地区会



オンライン開催2年目でしたが、今年度はオミクロンの蔓延により、直前で基地局設営についての見直し(基地局参加人数の変更など基地局運営方式の変更)を余儀なくされるなど、コロナウイルス対応に翻弄される部分は否めないものがありました。しかしながら、昨年のオンライン開催の経験を生かし、よりスムーズな運営を行うことができたと思います。

全研の参加促進をはかるキャラバンは実行委員全員が担当する形にしていますが、今回の全

研では、山崎清彦氏(東部地区会)に、動画作成のレクチャーをしていただいたり、マニュアル動画を作っていただくことで、実行委員が、PR動画作成スキルを学び、自分たちでPR動画を作成することができました。YouTubeで各分科会や記念講演の紹介動画を配信するなど、PRについては、新しいチャレンジ

ができました。また、菊永良枝副代表理事のご協力により、全研テーマ曲をオリジナルで作成することができPRを盛り上げていただくことができました。

記念講演は、アフター障全交を絡めた内容でもあり、これからの環境変化に対応することの重要性を再確認し、未来に向けて光を見いだせる報告でした。

分科会は、今までで最大数の8分科会となりました。各分科会のテーマは、同友会理念を再確認できる内容のもの、これからの環境変化への対応に重点をおいたものなどさまざまで、参加者は、自社の経営課題に沿った選択ができたと思います。また、実行委員会内でプレ報告の場を共有し、当日参加することができない分科会の報告を聴く機会を設けました。これにより、実行委員メンバーがより学べる場をつくることができたと思います。

参加率については例年と比べても伸び悩み、目標500名のところ、最終登録者数392名でした。全研実行委員会の皆様はじめ多くの方にご尽力いただきましたのに、目標を達成できなかったのは、ひとえに私の力不足と反省しております。次年度に向けて、この反省点を生かして、より学び合える全研を、実行委員会の皆様と共に作り上げていきたいと思っています。

《記念講演》お互いを尊敬しあえる民主的な経営 ～開かれた経営からの共育ち～

記念講演者：奥山敏康氏
(株)アイワード 代表取締役社長
(一社)北海道中小企業家同友会

記念講演担当者 横山由紀子氏 (副代表理事 浦和地区会)

コロナ禍が長引く大変な環境の今、社員を最も信頼するパートナーとして捉えているか、目先の利益や課題だけに目を向けてしまっていないかと自答。労使は対等であるという同友会理念を実践し続け、100年後、200年後を見据えた経営をされている奥山社長に講演いただき、同友会の先人の50年以上も前から変わらぬ思い「労使見解」を改めて自社に問い直し、コロナ禍だからこそ、遠い将来を見据えて経営をしていく

ことの重要性を皆さんと共有したいとの思いでご講演いただきました。

アンケートからも、社員への情報公開の必要性和共有の大切さ、民主的な経営が企業を成長させ人を豊かにする根源であること、100年単位でモノを見ること、100年後に思いを繋げるために今すべきことを行う、等のご意見を頂戴しました。大変な時代だからこそ、社員と同じ方向を向き、新たな世界を変わらぬ想いで進化させていく決意が出来た時間となりました。

※記念講演の概要は、DOYOUさいたま5月号に掲載します。

【第1分科会】政策委員会

地区会が地域を変える！
～県内地区会の実践例に学び、
各地区会でイメージを膨らまそう～

報告者：

川崎果夢生氏〈有サンアーム工芸社 代表取締役 川口地区会〉
山崎一樹氏〈有ベストプラン 代表取締役 中部地区会〉
吉田理子氏〈企業組合 i-casket 代表理事 東部地区会〉
水上真紀氏〈株ノワテック 代表取締役 中部地区会〉



川崎果夢生氏 山崎一樹氏 吉田理子氏 水上真紀氏

中小企業にとって、地域とは何か？ 地域づくりとは？ 同友会は、全国的に学校や行政、企業団体と連携して、キャリア教育や振興条例の制定など地域づくりの役割を担っています。昨年の全研では、京都同友会の地域の未来を担う「地域企業宣言」からその先進的な実践事例を学びました。一年間、目指すべき地域企業の在り方を模索してきましたが、会員の中には、地域との繋がりがイメージできないという声が多くありません。今年は、地区会で「地域」をテーマに例会等を開催する動きが広がっている中で、どのようにすれば、学校や行政、他団体などと連携した「地域づくり」が目指せるのか？ そこに焦点を当て、地区会が地域を変えているという実践事例を3地区4名に報告いただきました。中小企業が、自ら働きかけることが大切だということ。例会を重ねることで、意識を高め合いお互いに発展的な繋がりをもたらすこと。みんなで住みやすく働きやすい環境づくりを目指すこと。地域で人を育てることは、地域の未来をつくるということを学びました。グループ討論では、自社の経営改革と外部環境改善を一体とし「あの企業で働きたい。あの企業(団体)が地域の誇り」だと信頼され、生きがいと誇りある地域づくりを牽引しようとする同友会理念を確認し、地域づくりを担う地区会活動について議論しました。座長からは、「中小企業の健全な経営は、地域の発展に繋がります。同友会づくりが地域づくりです。良い会社を増やし、同友会運動を頑張りましょう」とまとめていただきました。生活や働き方が激変していく中で、常に新しい価値観を共有し革新してきた同友会運動の指針を再認識する機会となりました。

(浦和地区会 三角武一郎 記)

座長総括

今回、「地域づくり」をテーマに初めての試みで、3地区4名で地区会活動についての報告を頂きました。短時間に4名の報告を頂くと言うのは、運営、進行等なかなか難しい点も多く、プレではうまくいかない点もありましたが、何とか、成功へと導くことが出来ました。報告では各地区会の地元教育機関と

のつながり、地域づくりを模索し色々重ねて来た活動、地区会と行政の関係を作り連携して活動していく事、さらに報告者自身の会社経営と地域づくりとのかかわりの重要性に気付いていった事も聞く事が出来ました。そして、その同友会活動の積み重ねが、地域づくりに少しずつでも、つながって来ている事を理解できたのではないのでしょうか？ すでに、同友会活動が、「中小企業振興基本条例制定」にまで、結びつけている地区会もあるでしょう。しかし、まだ、どのように、地域づくりをしていったらよいか？ 地域づくりと企業経営が、どのように関係あるのかわからない？ そんな地区会もあるかもしれません。今回、実践例を学び、グループ討論で、イメージが少しずつ膨らんできたのではないのでしょうか？ 地域づくりは、地域企業の健全化を生む！そして同友会地区会活動の地域づくりへの活動が、実は、同友会の仲間も増やすことにもなり、それが、すばらしい地域に変えて行く事にも繋がると確信出来ました。

(中部地区会 中山晴喜 記)

【第2分科会】経営労働委員会

ぶれずに進化する経営
～経営指針を携え一歩そしてまた一歩～

報告者：日高香苗氏

〈かなえハウス 株 代表取締役 むさし野地区会〉



2015年に副社長の肩書で参加した経営指針づくりセミナー(以降セミナー)は、日高さんにとって全く思いもよらない展開を見せることとなります。セミナーが後半に差し掛かった頃、会社の経営悪化がはっきりと見えてくる中、ついに創業社長から切り出された「会社を引き継いで欲しい」という言葉に大いに悩みます。ここで転職するかどうか、でも最終的に決断できたのは、自分を信頼して仕事を任せて頂いている多くのお客様を絶対に裏切れないという強い思いだったと言います。こうして日高さんは11月、一人の社長として無事にセミナー修了式を迎えたのでした。

日高さんは「今から思うと、もし経営指針が無かったらどうなっていたんだろう、本当にセミナーに参加していて良かった」と言われます。まさにその後の経営は自分が作った経営指針をブレずに一歩一歩ひたすら実践していく取り組みとなります。営業の考え方、会社の組織づくりの考え方など、科学性、社会性、人間性の側面を意識して、下請けの仕事はやめる、地域に根付いた会社として基礎固めをする、協力会社への支払いを遅らせることなく、また社員に賞与を支払いながらも黒字化する、そうしたお互いの信頼関係を大切にしながら6年間続けて来られました。

他のリフォーム屋さんには出来ない差別化を意識し、期待を

上回る提案力でお客様の感動を生み出すこと、そして「明るく、楽しく」をモットーにした会社づくりを進めています。またリフォーム作品コンテストで全国優秀賞を受賞して、「現場」ではなく「作品」というように意識が変わったと言います。仕事に誇りを持つとともに、悩んだ時は「何のために経営をしているのか」を問い続ける経営に大きな刺激と学びがありました。

(東部地区会 吉村浩平 記)

座長総括

第2分科会では焦らずに一步一步、経営課題を乗り越えていく実践事例が報告されました。その実践事例の根底に共通するキーワードは「信頼関係」でした。報告者の日頃からの経営姿勢の確立が信頼関係を生み、雇用関係だけでなく、取引先・お客様へのプラスの波及効果が巡り巡って自社に還元されるその様はまさに経営の王道だと学びました。

またどんなに素晴らしい理念や指針があっても必ず困難や上手くいかないことがあります。その時に諦めずに一步一步、歩みを進めていく胆力のようなものが経営者には絶対的に必要で、今回の報告では参加者とその部分を気付くことが出来ました。

最後に、いかなる困難があっても社員やお客様、取引先を信頼できるパートナーと考え、経営者の考えを十分な説明や行動で示し理解してもらい、社員と共に日々歩みを進めていく会社・経営者は外部環境の変化に左右されず、ぶれずに経営を推し進めることが出来ると学べた点は大変有意義であったと思います。

(大宮南地区会 上坂 理 記)

【第3分科会】共同求人委員会

強く変わらぬ想いとしあわせ社会創り ～子育てにしあわせな社会創りのために～

報告者:小松秀人氏

〈㈱コマーム 代表取締役社長 (一社)東京中小企業家同友会〉



報告者(株)コマームの2代目社長小松秀人氏、4人兄弟の長男、2020年事業承継、母は会長、3男朝比奈氏は副社長、4男もコマームに就職。

幼少期からスポーツに励み、大学はアメリカに留学させてもらいました。

その頃、親の会社の経営状態は厳しく、ギリギリで凌いでいました。頑張っている親に対し、「会社は継がないから期待しないでくれ」と言い渡米して13年が経過したが、31歳の時、帰国と同時に母の会社(株)コマームに就職。子育てをしながら働く三人の主婦で始めた事業は「地域にあったらいいな」を実現させるためでした。内容は0歳児から18歳までの保育、教育、療育を中心に埼玉県で活動し、現在は多種多様の事業を展開しています。入社当初から母と衝突し、経営とは「お金を稼ぐこと」、「売上、利益が一番大事」、「弱

肉強食」の社会だと思っていた秀人氏。社長の母と衝突しながらも、会社のことを考え1から会社を作り採用から研修まで1人で行い本当の現場を知ることになりました。

そこで気づいたことは、社員のがんばりで会社が成り立っていること、決して高いお給料がもらえない現場でも使命感と責任感に溢れた社員達の姿でした。母が言いたかったことがなんだったのか理解できた瞬間でした。先代の経営理念に秀人氏の強い想いをプラスして「子育てにしあわせの社会を創造します」を新しく掲げ、仕事もプライベートも含めた人生がしあわせになる働き方=ワークライフハピネスを目標にしました。最後に世界にも通用する子育てのパイオニアとして「(こころ (ま)ーるく (む)すぶ」(株)コマームを成長させていくと力強く報告を終えました。

(東彩地区会 林 栄治 記)

座長総括

(株)コマームは、働く母の為、子供達の笑顔のため、子育てについて『地域のあったらいいな』にこたえる形で作られた会社でした。そこには創業者である、小松社長の母である会長の想いのこもった会社でした。今回の報告では、事業承継を通じて社長自身が会社に対して本気で考えた理念とビジョンを実現する為に何をしたのかを話されました。コマームが追い求める理想の姿、すなわちコマームの経営理念、「子育てにしあわせな社会創り」を全社で追及することは、社員のしあわせな働き方にもつながりました。小松社長が本気で考え本気でぶつかり、スタッフ全体の幸せについて考えて、社員と共に導き出したことは、心から成し遂げたい想いを大切に、共有し、それを強く変わらず持ち続ける事が経営の原点であるということでした。気が付けば創業時の想いは現社長が形を変えながらも芯を変えず、全社で共有しコロナ禍でもぶれない会社経営につながっているのではないのでしょうか。

(東彩地区会 壽山智昭 記)

【第4分科会】社員教育委員会

行き着く先は社員共育!

～三位一体の浸透で会社は変わる～

報告者:吉田雄亮氏

〈(株)吉田電工 代表取締役 副代表理事 戸田・蕨地区会〉



第4分科会は、(株)吉田電工の吉田社長の報告でした。テーマは『社員共育』、同友会に入会してから、三位一体を学び、主に社員と共に成長に至る経緯についての内容でした。入会当初は、グループ討論も拒絶していたとのことですが、同友会の考え方に惚れこみ、その考えを会社で貫くという姿勢に変わりました。経営指針、新卒採用を始めるも、社員から不満の嵐。しかし、毎年実践していくことで、少しずつですが変化が生まれました。

もう一つ、変化の兆しが見えたきっかけは、社員面談と「企業変革支援プログラムSTEP1」の実施でした。社員面談では、とにかく『話を聴く』ことに集中し、STEP1では、色々なものを数値化し、社員満足度の数値の向上に努めました。現在は、社員からの厳しい意見が上がることはあっても、仕事や会議も社員主体で進めることができるようになりました。

グループ討論では、『社員と一緒に会社を発展させるにはどうすればよいか?』というテーマに社員との関係で深掘りしました。社員との関係は、会社により様々です。最近採用を始めた方、事業承継者として大勢の社員を引き継いだ方、色々な形があります。しかし、どんな形であれ、社長と社員の考えが一方通行であれば、会社が発展するはずありません。十分な意思疎通を行い、経営理念を共有することが大切だということを改めて認識することができました。

最後に、吉田社長の補足報告が印象的でした。『プライドは下げるべき』。同友会にはおせっかいな方が多いです。そういう方のお話には、謙虚に耳を傾けた方が良い。聞く耳を持たないと機会損失となります。私も、同友会歴は長くなってきましたが、改めて謙虚な姿勢で、会員の方と向き合いたいと思いました。

(戸田蔵地区会 小山展弘 記)

座長総括

吉田さんの報告は、やり方を学ぶのではなく在り方を学ぶ事が大切と、同友会の学びの本質と三位一体経営の解説、数々の失敗を経験しながらも同友会での学びを愚直に社内へ持ち込み、ブレずにやり続けることで少しずつ社内に理解者が増え、自社が変わっていく過程を詳しく話されました。

その後「社員と一緒に会社を発展させるにはどうすれば良いか」をテーマに、大変活発なグループ討論が行われました。社員教育委員会らしく会員企業の社員さんの参加も多く、社員目線で捉えた意見も大変参考になりました。

質問、補足説明も時間が足りなくなるほど充実した時間となりました。

社員一人一人の違いを認め、しっかりと意見を聞き当事者として巻き込み自ら成長できる会社をどう築いていくか。

経営指針づくり、採用活動、社員教育をやり続け、経営者と社員が対等なパートナーとして共に成長し、発展していくことが会社を永続させるために絶対に必要と改めて学びました。

(高橋正哲 記)

2021全研チャレンジ!



第1分科会のPR動画より

今回は初めて、実行委員会メンバーが各分科会、記念講演のPR動画制作に挑戦しました。動画制作の勉強会からスタートし、最終的には訴求力溢れる、個性豊かなPR動画が完成しました。

【第5分科会】障害者雇用推進委員会

働きづらさを抱える人が戦力に変わる ～地域に根差し人が輝く本気の企業づくり

報告者: 税田和久氏

〈株)グローバル・クリーン 代表取締役 宮崎県中小企業家同友会〉



「生きるために働くのではなく、生きがいのために働ける会社を」
こう語る税田さんは、社員教育に力を注いできた経営者です。

障害者雇用は9%を達成し、メインの清掃事業では戦力として活躍しているそうです。その他にも高齢者や

外国人雇用など、まさにダイバーシティ経営の実践者です。

(株)グローバル・クリーンは経済産業省からの賞をはじめ、様々な賞を受賞しています。その受賞理由のほとんどが、「多種多様な人材登用と、分け隔てない可能性を伸ばす人材教育」です。

実は以前は、女性社員は清掃業務の一部しか携わっていません。男性社員ばかりにそのしわ寄せが行き、残業を強いていたのだそうです。

「ビルメンテナンスなんて女性ができっこないよ」
こういった既成概念から脱却できたのは、専務の一言。

「女性でもできるんじゃない? 誰かやってみて?」

この一言から今では、女性管理者が75%を占めるほどになりました。

「当たり前」を疑うことが、社員の可能性を広げ、それが事業の拡大に繋がりました。

「制度ではなく、風土を作る、当たり前を疑ってみる」を合言葉にチャレンジし続け、今期は事業再構築補助金の採択もあり、外部LED広告事業を展開予定です。

多様な人材雇用は「当たり前」、中小企業の生きる道は世の中の当たり前ではないものを「当たり前」にすること。

DX化も積極的に進め、新しいチャレンジは留まるところを知りません。

最後に夢を語っていただきました。それは「ウルトラクリーンアカデミー(プロの掃除を教える訓練校)」。どんな人でも輝ける、誰でも活躍できる学校を創立することです。障害という言葉をこの世からなくす。

(株)グローバル・クリーンの挑戦は、携わる人全てにワクワクを届けています。

(大宮南地区会 串田哲也 記)

座長総括

同友会に入会してから、障害者雇用推進委員会の分科会は、すべて運営側で参加していますが、今回は私が関わってから初めて県外の報告者となりました。

過去の分科会での報告づくりの多くは、気心の知れた委員会メンバーだったこともあり、どこか部活のようなノリで、何度も

集まって、あれやこれやと意見を交わしていましたが、県外、それも宮崎の報告者、オンラインでのやりとりとなると、打ち合わせの後、次のプレ報告までの間は報告者に委ねて待つこととなります。

限られたやりとりの中でしたが、昨年10月に障全交を終えた直後の全研分科会ということもあり、委員会内で合言葉にしてきた「アフター障全交」への大きな布石とすべく、その意図を報告者に伝え、報告の内容を磨きあげていくことを心がけました。

「例会は参加するよりも作る側にこそ学びがある」と、よく言われますが、今回の座長の経験も、とても大きな学びをもたらしてくれました。

(むさし野地区会 関根健一 記)

【第6分科会】仕事づくり委員会

グレート・リセット よりよい未来を求めて ～アフターコロナを見据えた 新世界への実践意見交換セッション (SDGs とフューチャーセッション)～

報告者:野原健志氏

(㈱ホスピタリアルファ 代表取締役 大宮東地区会)



第6分科会の報告者㈱ホスピタリアルファ 代表取締役の野原健志氏は、仕事づくり委員会の第3回実践学習会(2021年6月21日)で、報告していただき報告内容などから現在のコロナ禍のなかで、これからの社会がどのように変わっていくのか(グレートリセット・ゼロからの発想)と「世界中にある環境問題・差別・貧困・人権問題といった世界のみならず2030年までに解決している」というSDGsについて学習する分科会を企画し、「私たちの10年後」共感できる仲間と話し合うグループ討論をフューチャーセッションという手法を使い、Google Jamboardを利用したグループ(老後・海外・仕事)分けを行い話し合いました。

はじめに野原氏から㈱ホスピタリアルファの仕事内容・ホテル専門の清掃事業と社員さん4人とパート従業員30人から50名の全員が、外国の方で、日本語を話せないことと日によって仕事量が安定していないから給与も安定していないなどの自社の課題について、「SDGsビジネススクール、同友会経営指針づくりセミナーからの学びからスタッフに感謝、みんなと楽しく仕事をしたいその思いから企業理念ができました」と野原氏。企業理念と社会課題のマッチングとして、移動販売のキッチンカーが生まれました。未来からさかのぼって今すべきことを考える(バックカスティング思考)、異なるものを組み合わせる新しいものを生み出す、柔軟に考える(クロス思考)で、自社

の10年後を考える分科会でした。

(川口地区会 太田茂吉 記)

座長総括

第6分科会ではまず、SDGsビジネススクールの学び経験とSDGs関連資格も有する野原氏に報告いただきました。野原氏以外は皆外国人である企業経営の報告は、多様性と言えばジェンダーやLGBTに偏りがちである昨今、外国人の雇用や労働者に対する多様性へ寛容という視点や柔軟性を考えさせられるものでありました。参加各位にとって他では感じられない刺激が得られたものと考えます。報告の後、当委員会が独自に設計した「フューチャーセッション」を実施。海外・老後・仕事の3つのキーワードから、10年後を考えると、ゼロ思考とブレインストーミングのトレーニングを体験しながら、普段の例会とは一味違う体験が出来たのではないのでしょうか。通常のフューチャーセッションは、もっと長い時間をかけて行うものがありますが、当委員会の実績によってショートバージョンは確立されています。しかしながら、リモートで実施することには未だまだ不慣れであり、セッションに深みを得ることは多少不足気味であった点は反省すべきところです。

(川口地区会 上原秀教 記)

【第7分科会】女性経営者クラブ・ファミ

自社の存在意義を地域と共に ～環境教育でSDGsに繋がる取り組み～

報告者:南 純代氏

(㈱日本海開発 代表取締役社長 石川県中小企業家同友会 副代表理事)



子供のころは家業に対して「なぜ人が嫌がる仕事をするんだろう」と悩んでいたという南氏。そして社員に対しても「ここしか来るところがなかったんだろうなあ」という思いだったそうですが、「入社して初めて、経営者である父親の地域貢献にひたむきに取り組む謙虚さを知り、また社会に必要な事業と理解できたことで、ごみ屋の娘というコンプレックスが誇りに変わっていった」と言います。

廃棄物処理業から環境事業に変わるためにSDGsを取り入れて、委員会も作り、またSDGsのゲームを全員で体験することで共通言語も持てるようになってきたのだそうです。

「ごみの収集車に子供たちから募った絵を入れたり、環境教育の一環として小学生に環境絵日記を書いてもらったり、職場体験を受け入れることで、それが社員の誇りにもなっている」とお話されていました。

途中で社員が作成された動画が流れたのですが、2021年の活動紹介として1年間の活動をコメント入りで紹介しているもので、どの企業でも取り組めるものではないかと思いまし

た。

最後に南氏から「企業の存在価値が経済価値だけではなく、環境や社会性も考える必要となってきた時代、つまり地域に必要とされる存在意義と価値を考え、行動することが、これからの中小企業に求められていると考え『人と未来と環境を考え、地球に優しい企業へ』という新しい企業理念に変更しました」との報告がありました。

グループ討論は『地域に必要とされる企業になるためにどのようなことをやっていますか、あるいはやりたいですか』というテーマで行われ、本当に私達、中小企業は、地域から必要とされる企業になることが求められているのだと再認識する時間となりました。

(大宮南地区会 大原佳子 記)

座長総括

南さんの報告は、ご自身の経営者としての覚悟、そして、SDGsを使って社員と共に、地域(行政、学校、他の企業)を巻き込み、新しい付加価値、存在意義を能美から日本へ、世界へという内容でした。

子供のころはイヤで仕方がなかった家業を「残したい」思いから、覚悟を持って継ぎ、自社と社員の存在意義を打ち出すツールとしてSDGsを使っています。「SDGsを行う」のではなく「会社を成長させる手法として使いこなす」姿勢は、私たちに新しい風を吹き込んでくれました。

企業として経済性を求めることは当たり前。それと同時に社会性を持ちその経済性と社会性の相まった部分が付加価値であると話されました。南さんはそれを実践し、自社だけでなく、他の企業や団体とも連携を作っています。

報告の中の動画での社員さんはじめ、どの方も笑顔がとても素敵なのが印象的でした。小学生から大学生までの生徒学生と共に石川県能美の発展を目指しながら、その活動を通して社員と共に育ち発展していく姿に感動を覚えました。

中小企業だからこそできること、そして中小企業家同友会の自主・民主・連携を学んだ分科会でした。

(川越地区会 下村信子 記)

きました。2017年仕事に繋がればと、取引先の紹介で同友会に入会し、経営指針づくりセミナーを受講したことで、「山田建具と建具の技術を次世代に繋げる。」ことが自分の役割だと気づき、技術が磨けない既製品取付だけの仕事を断る決断をしました。売上は減少しましたが、その仕事を担当していた身内ではないTさんが退社したことで、内心ホッとしたそうです。しかし、セミナーの中で家族経営について指摘され、退社したTさんには居場所がなかった、そんな環境では新しい社員が入ってもすぐに辞めてしまうと気づき、公私混同をやめていきました。その後、建設部を立上げ、忙しさが落ち着こうとした矢先、山田建具の未来について話していたお姉さんが急逝されます。入院中、退院後のことを考え介護事業部立上げを決断し、今年事業をスタートさせました。

山田氏は、経営者の役割は働きやすく、力が発揮できる環境を整えることだと考え「社員を尊重する。社員を信頼し任せる。見守る。やるべきこと、やりたいことを伝える。」姿勢を大切にしています。

他県青年部からも多くの参加があり、グループ討論では熱く激しい討論が交わされました。事業ドメイン、提供している価値の本質を見極め、ブレずに経営することが大切であり、志を同じく切磋琢磨できる仲間がいることが未来に繋がるのだと、改めて気づきと学びの多い、今期青年部の集大成となりました。

(中部地区会 鈴木将浩 記)

座長総括

実行委員会の皆様、事務局の皆様、全県経営研究集会の運営についてご尽力頂きありがとうございます御座いました。第8分科会(青年部分科会)では(有)山田建具の田中幸治さんに報告頂きました。

今回の報告の中では、3代目として家業を承継した田中さんが、取引先の見直しと大胆な社内変革を行い、自社の社員にとって最良を考えて行動し、家業から社業へ会社を変革する姿を報告頂きました。

報告テーマは、「次世代のリーダーに必要な姿勢とは?『やらない勇気 覚悟 涙』」というテーマにしました。田中さんの答えは「見守ること」「社員が主役の会社を作ること」でした。任せることは子育てに似ています。同友会で学び、他の経営者と比べ悔しい思いをしながらも、会社の理念・ビジョンを社員に伝え続ける田中さんの姿が印象的でした。

グループ討論では、「あなたの考えるリーダー像は?」という討論テーマでお話頂きました。それぞれの考えるリーダー像について、白熱した討論が繰り広げられました。

理念・ビジョンを伝える時に経営者として芯の通った姿勢が大切、今の事業を何のためにやっているのか? 事業ドメイン・事業領域を明確にすることが大切という厳しい意見もありましたが、やるかやらないかだけ、経営者なんだから社員の成長が一番必要だと思う、利益も大事・売上も大事。でも「やるのは人」だから社員の成長を望んでいこうと熱い討論が繰り広げられました。

(さくら地区会 中川怜子 記)

【第8分科会】青年部

次世代のリーダーに必要な姿勢とは ～やらない勇気 覚悟 涙～

報告者: 田中幸治氏 (有)山田建具 代表取締役 中部地区会)



「社長、辛そうだからやりたくない」コロナ禍でも多忙を極めていた時に、長男から言われた一言にハッとし、このままでは次の山田建具はなくなると感じてしまったそうです。

山田氏は2012年の入社からとにかく売上を上げることに専念して



生きるを大切に～ 仕事も趣味も余暇も

大井 智世子 (北部地区会)

(有)高橋工業

埼玉県本庄市共栄 56-1

E-mail kahashikahashi@gmail.com



♪イェスタデイ・ワンスモア♪
演奏

♪千と千尋の神隠しメドレー♪演奏

<時間の過ごし方>～気ままに～

その日の気分で決めずに行動することを心がけています。やらねばならないの囚われの気持ちから、やりたいの気持ちへ自然体で行動するためです。同じことをするのにも、やらねばならないとやりたいでは、気持ちの中で雲泥の差があることに気づきました。やらねばならないと思うと、やっていない自分を認めなくてははいけませんし(笑)。人生半ばをすぎてきますと、「まあ～やってるのかなと、自分を認めてあげるのも必要なのかな」と、思っております。若い頃と同じには出来ないな～が、本音でしょうか。

ランチを楽しみに出かけたり、町の老舗のお菓子屋さんに立ち寄り、焼き立てのみたらし団子、餡子を買ってきてお汁粉をしたり、午後の仕事の休憩がちょっと楽しくなるような小さな楽しみをプラスしながら、過ごしております。

<趣味>～フルート～

5年前にフルートを始めました。友だちがミニハーブを習い始めましたので、ミニハーブに合う楽器は何がよいかと考え突如始めました。フルートを習いに音楽教室に通いました。

フルートの先生には申し訳ないのですが、「家での練習はしません」と言いきり、月3回のレッスンのみでご教授いただき、2年間、真面目に通いました。フルートは、意外と肺活量を使います。息を管にポイント良く吹き込むことで音がでます。ポイントに当たらないと、音にならないので、息漏れです。30分も真剣に練習するとクラクラしてきます。(レッスンでクラクラ)また、息の当たり、量で、音程も

狂ってしまいます。もちろん、安定した音には腹筋力は、必須です。初めてを始めることは本当に大変です。それでも、出来ることをやるのも面白くないもんです。フルートを習って1年目、友だちのピアノ伴奏で、度胸の本番、演奏。2年目、フルート&ミニハーブ演奏。なんだかんだと、毎年1回、友だちと顔を合わせ本番ドキドキの演奏をしています。学生時代に音楽を学んでおりましたので、ピアノを弾くことは出来ます。フルートの演奏と共に、ピアノソロ、ピアノ連弾、コーラス等、1年に一度ではありますが、大好きな音楽に没頭します。

<余暇の過ごし方>～料理～ストレッチ～

コロナ感染が広まり自粛になった頃から、外食が出来なくなった時期もありましたので週末は、作り置きできる料理を作っておこうと思い、料理をします。インスタ映えするメニューではありませんが、ひじき煮・切り干し大根・筑前煮・豆を煮たりしています。前日から豆をふやかし、翌日、自分好みの味をつけ弱火で柔らかくなるまで煮ます。花豆・大豆・金時豆、豆好きなので部屋に漂う豆の香りがたまりません。ご飯も土鍋で炊いてみたり、ちょっと丁寧な気が安めます。そして、豆が煮える間、煎茶を入れ甘納豆をいただくのも至福の時です。それと、コロナ以前より活動量が減っているので、ストレッチを気まぐれにしています。毎日、やりましたら、身体が痛くなってしまいましたので、気まぐれくらいが良いのかと思っております。豆が煮える間にストレッチ。つい、仕事をしてしまう時もありますが…。



♪シルエットロマンス♪演奏

各地区会で開催された例会をご紹介します。

【川口地区会 3月例会】

ベテラン会員が語る同友会の魅力と活用法

報告者：新井俊雄氏（㈱アライ 代表取締役会長）
由田陽子氏（埼玉同友会 元事務局長）



今年度最後の川口地区例会は、元事務局長の由田さんと㈱アライの新井さんにご報告をいただきました。同友会は成功者の会ではなく、経営者自身が本音で関わる会。自社や自身の課題をさらけ出すことで、経験豊かな仲間からの貴重な経営体験を聞く事ができます。また地区会を基本に、他地区会・県・全国へと、学びのステージや役の幅を広げることで経営者としても成長できます。同友会を自社の疑似体験として徹底的に使い、学びつくす。新井さんは「同友会シャワーを浴びる」と表現をされていました。

何よりも経営者自身が「会社を良くしたい、自分を変えたい」という強い思いを持つこと。これがあるからこそ、会で得た学びを自身の課題に置き換えることができ「よい会社・よい経営者」へ変化できるのだと感じました。

川口には偉大な先人たちがいたことも多く知ることができました。代表理事も務められた㈱タイホーの故・山口さんは、自社では既に経営理念があるにもかかわらず、その必要性を説き埼玉同友会に経営指針づくりの土台を築きました。よい会社・よい経営者だけでなく、よい経営環境を目指す、経営者の生き様によって今の埼玉同友会がある。偉大な先人達の存在を知り恐縮しながらも「川口地区会は埼玉同友会発祥の地、大いに誇りを持ってほしい。」という由田さんの言葉に勇気をもたらした会員も多かったのではないのでしょうか。

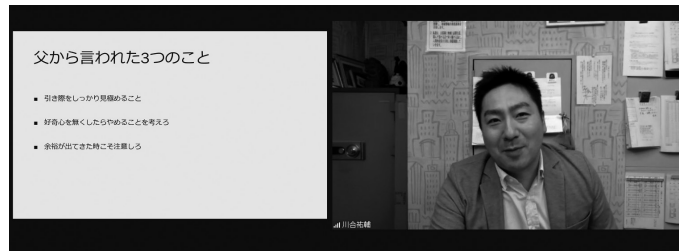
（小松和人 記）

【埼玉地区会 2月例会】

斜陽産業の事業継承とこれから 本業の維持と新規事業の 組み合わせで未来への挑戦！

報告者：川合祐輔氏（㈱川合新聞舗 代表取締役）

曾祖父が昭和8年に創業した新聞販売店を2020年に引き継ぎ、代表取締役に就任。新聞販売店という斜陽産業の後継者として、自社の現状、今後を考えて、本業の維持策と新規事業の立ち上げを模索した結果、ハウスクリーニング、ライフサポート部門を立ち上げます。またコロナ禍の緊急事態宣言のもと、新聞折り込みのチラシの減少などの経営の危機的な状況のなか、理念をつくり、経営計画を作り始め、人件費、新聞の拡販の為にサービス品の改善をしよう考えます。社員との面接をしながら、給与の見直しを行ない、職場



のIT化も考え、出勤の管理をITで行うようにしました。また、販売促進用の景品を選択制にして無駄をなくし、社員の会議や、月次の報告も始めました。そういう取り組みをはじめると、社員も、経営のこと、経費削減のことなど、考えてくれるようになり、新規事業であっても、失敗を恐れず、好奇心をもって取り組むようになり、店舗清掃、ライフサポート事業は順調だそうです。

新聞販売店舗数は2012年の18367店から、2021年の14276店へと減少の一途であるので、これからが新聞販売店の勝負であると感じました。

（白石博己 記）

【川越地区会 3月例会】

創業支援ルームから 組織・企業への成長

報告者：山取大希氏（税理士法人 TMコンサルティング 所長）



平成27年に創業支援ルームから始まり、現在30名の従業員へと成長した組織は、創業当初から一貫してブレない経営理念「クライアントの目標達成のための一番のパートナーでありたい」「お客様の目標達成のお手伝いをする」がしっかりと根付いています。報告は創業期・成長期・発展期・今後と4つのフェーズごとに山取氏が同友会で学んだ戦略・経営戦略・戦術をどのように行ったかを、とても解り易く報告されていました。

中小企業は利益を出し続けることで様々な可能性と目標を達成できる。それを一緒に考え、未来を描くお手伝いをしたい！という熱い思いがとても印象的でした。

創業当初は税務・財務だけでしたが、現在は未来と一緒に描くために経営のコンサルティングまでのワンストップサービスを提供してお客様の信頼を得ています。

また、人材採用時も経営理念に共感してくれる人を採用し社内が同じ思いを共有していました。残業ゼロ、給与水準アップにも取り組み従業員の働く環境にも力を注いでいる素晴らしい経営者です。報告を聞き終えて、自分の会社の未来も一緒に描いてもらいたくなりました。

（有迫真紀 記）

埼玉中小企業家同友会 2021年度第6回理事会議事録

《2021年度スローガン》 今こそ本質を見極め「人を生かす経営」の総合実践を
～同友会の優位性を発揮し激変する経営環境に立ち向かおう～

◆日時: 2022年2月25日(金) 18:30 ~ 20:30

◆会場: Web会議 (Zoom)

◆司会・議長: 高橋副代表理事

◆議事録署名者: 横山副代表理事

◆議事録作成者: 清水事務局長

・小松代表理事挨拶

現在、吉田副代表理事を中心に長期ビジョンづくりが行われていますがここでは新しい人が参加して来て大変活性化しています。討議の中での課題は自社に置き換えることができる有意義な内容になっています。ぜひ参加していない理事の方はこれからでも参加してください。

コロナ禍が継続する中、いよいよゼロゼロ金利融資の返済等が始まりますがここにきて全国では中小企業によっては厳しい経営になってきていると聞いています。そんな中、中同協では政府に対して第10次の政策要望を出しますがこの厳しい時に適時に要望を出すという団体が同友会です。その中同協の定時総会を2023年7月に埼玉で開催します。埼玉同友会の50周年でもあります。厳しい環境ですが皆で励ましあい乗り切っていきたいと思います。

議事(審議事項・協議事項・報告承認事項・連絡事項)

協議事項

2. 第49回定時総会について

(太田・小松代表理事・奥津副代表理事・金子副代表理事・小林理事・清水)

第49回定時総会を2022年4月23日(土)にWEB会議(ZOOM)で北部地区会の設営で第一部は総会、第二部は記念講演の2部構成で開催する。記念講演は森俊彦氏。続いて2021年度活動総括・2022年度活動方針案、2022年度組織図、2022年度役員候補案、2022年度予算案の検討、2022年度活動スケジュールについて質疑・討議した。

・総会設営概要の内、日程・開催方法・記念講演を協議

日程: 4月23日(土) 14時開始

開催方法: オンライン開催(手順、スケジュール等は調整)

記念講演: 森 俊彦氏 一般社団法人 日本金融人材育成協会 会長

総括・方針についての協議内容

・2023年に設営を担当する中同協定時総会の準備を方針の中で明確にしていきたい。

報告事項

1. 理事・理事候補者役員研修会について(横山副代表理事)

2022年度理事候補者研修会をオンラインで開催する。参加対象者は次年度理事になる方全員(新任含む)及び現理事の方。研修をうけることによって役員としての役割や立ち位置が明確になるのでぜひご参加ください。

日時: 2022年3月25日(金) 16時から (WEB開催)

2. 全県経営研究集会報告(高橋副代表理事)

今年はコロナ禍の影響で月毎に企画や実施内容が変わり、大変苦労したが、それでも実行委員の方を中心に最後までがんばっていただき無事に開催できたとの御礼の報告があった。アンケートはここ数年では見られなかった活発な意見等が多かった。今後、委員会活動等に活かしていく。最終参加登録数は500名目標で実績392名の最終登録者数だった。2月までは厳しい予測をしていたが最終的には各地区会とも50%以上の参加率となった。収支についてはまだ確定ではないものの支出が少なく黒字決算の予測、これについては直前週までは赤字覚悟だった。また、コロナの状況により基地局の集人数を直前に減らしたことや懇親会・昼食を取りやめたことによって最終黒字となった。

・全県経営研究集会開催日: 2022年2月15日

3. 政策委員会報告(米山政策委員長)

現在、2022年1～3月の景況調査(回答期限は3月7日)を実施しているが今のところ目標287筆のところ100筆と3分の1の実績。全国の他同友会では景況調査の結果をもとに自治体、関東財務局、金融機関等との連携で活用しているとのこと。埼玉同友会としても今後はそのような活用をしていく。景況調査は自社の定点観測と並びに地域の経済状況を把握することで同友会と

して地域に情報を還元できるように今後はなっていきたい。まだ、期間があるのでぜひ多くの方も記入していただきたい。

4. 埼玉同友会長期ビジョン検討会について(吉田副代表理事)

長期ビジョン会議は第7回を数えている。今は各分科会のスローガン案が出揃ったところでこれを基に骨子を検討して3月の理事会で協議・審議して4月県総会で発表していく。各部会はその後、骨子から具体的な実施内容の文章化を図り、2023年度の県総会にて発表する段取りとなっている。どの分科会に参加しても自社に役立つ内容になっているので是非初めての方でも参加していただきたい。また、2022年3月までは開催時間を午前10時～12時としているがこれについてはアンケートを実施して次年度の実施時間を設定していく。

5. 2023年中同協第55回定時総会in埼玉について

(宇梶・小松(和)実行委員長)

2023年度開催の中同協定時総会in埼玉は2018女全交in埼玉、2021障全交from埼玉と異なり、埼玉同友会の専門委員会が自ら応募して実施したのではなく中同協主催の定時総会である。全国大会として埼玉は主として設営担当となる。しかし、それでも埼玉同友会としては一人一人が主体となって全会員一丸となって進めていきたい。

現在、理事会にて実行委員の募集をかけているが応募を少ないのが現状。今後、組織や役割等が明確になれば参加する実行委員が増えることを予測している。各分科会を組織案の中では県下16地区会が各々担当する案が出ていて室長等で約42名の方に実行委員になっていただく予定。その他は役割毎の人数案で募集をしていく。今回の定時総会は埼玉同友会会員全体で担当するよううねりを出していく総会にしたい。また、埼玉同友会のみならず自社も良くなるような取り組みをしていく。

【キャッチコピー(更新予定)】

やるぞ! 全国総会! みんなで前進! オール埼玉!

・日程: 2023年7月13日(木)～7月14日(金)リアル開催予定

6. 新入会員オリエンテーション開催報告(菊永副代表理事)

2月21日(月)16時に5名の方が参加され開催しました。オリエン参加により入会したての方の退会率が下がることを期待している。また、3月15日(火)に初の試みのオンラインでの定員12名でオリエンを開催する。次年度についてはオリエンの要望があれば毎月開催を考えている。

7. その他

・経営労働委員会(満生委員長、日高氏)

2023年度経営指針づくりセミナーの応募について説明があった。3月1日告知、3月14日から申し込みを受け付ける。

定員は20名、参加費は10万円。実施方法はリアル、オンラインを併用する。

・共同求人委員長 (山本委員長)

埼玉県教育委員会と埼玉同友会が主催となって高校の就職指導担当者の教員を対象に企業研究会を実施する。狙いとしては埼玉県の高校の先生と交流で高校生の就職の際に地元中小企業へ就職の選択の幅を広げてもらうこと。企画内容は先生との懇談会形式ではなくセミナー形式①課題解決型授業の現状と報告②各企業が求めている人材③教員との交流会)を同友会と教育委員会が開催する方法とする。高校生を採用したい企業でこれに参加したい会社はぜひ応募していただきたい。但し、条件等に合致した企業が対象になるため案内チラシを参照下さい。

(セミナー実施日 4月19日13時～、参加費3000円)

新たな辞書の1ページ **新入会員紹介** (2/1~)



稲村武春
はんご広場熊谷店
さくら地区会
印鑑・ゴム印・浸透印・のぼり・垂れ幕・表札・プレート・カッティングシート・マグネットシートの販売



西山 富由紀
(有)星川美容室
さくら地区会
美容業



繁田啓文
(株)アジアハウジング
川越地区会
土地建物売買、仲介、賃貸管理業(市街化だけでなく市街化調整にも特化)



後藤 留美
ハートフルサービス
川口地区会
お手伝いサービス、訪問ヘアカット、葬儀



鈴木信行
大商貿易(株)
大宮南地区会
服飾雑貨の輸入卸(女性向けストール、革製品等)

会員information

《住所・TEL・FAX・社名・役職変更》

東部地区会 (株)ホウユウ 太田利江会員
(同)R・ブレイス 代表社員へ
〒342-0045 埼玉県吉川市木売2-4-3
倉本ビル105
TEL:048-971-8054
FAX:048-974-8059

《TEL・社名・役職変更》

川口地区会 家族こころ相談室 カウンセリングルーム
フェアリー きくちみよこ会員
(一社)対人コミュニケーションサポート協会
理事長へ
TEL:080-2565-3063

《役職変更》

戸田・蕨地区会 第一倉庫冷蔵(株) 榎本文夫会員
総務部 参事へ

《住所変更》

むさし野地区会 (株)エンクリエイト 三宅 亮会員
〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町8-7
ネオ寺島ビル 3F

《社名変更》

戸田・蕨地区会 萩原・長嶋司法書士事務所 長嶋武志会員
司法書士法人Rethinkへ

同友会日誌 2月1日~28日

- 1日(火) 大宮東幹事会、川口幹事会、川越幹事会
西部幹事会、大宮南幹事会
- 2日(水) 浦和幹事会、2022年度役員選考会、埼玉葛幹事会
中部幹事会、むさし野幹事会、浦和経営問題解決談議
- 3日(木) 東部幹事会、大宮中央幹事会、戸田・蕨幹事会
北部幹事会
- 4日(金) 正副代表理事会議、仕事づくり委員会
- 7日(月) 人を生かす経営勉強会、東彩幹事会、さくら幹事会
彩北幹事会
- 8日(火) 共同求人委員会、2022年度議案書検討プロジェクト
障害者雇用推進委員会
- 9日(水) 地区会長会議、広報情報化委員会
- 10日(木) 経営労働委員会
- 14日(月) ファム幹事会
- 15日(火) 2021全県経営研究集会
- 16日(水) 埼玉葛例会
- 21日(月) 政策委員会、新入会員オリエンテーション
むさし野正副連絡会
- 22日(火) 長期ビジョン検討会、社員教育委員会
- 24日(木) 青年部幹事会
- 25日(金) 正副代表理事会議、理事会
- 28日(月) 全研実行委員会

会員数

2022年3月23日現在

地区会名	会員数	地区会名	会員数	地区会名	会員数
川 口	58	大 宮 南	78	北 部	31
戸田・蕨	47	西 部	41	さくら	89
浦 和	74	むさし野	90	川 越	84
大 宮 東	39	東 部	128	東 彩	59
大宮中央	33	中 部	47	彩 北	17
		埼 葛	49	計	964

編集後記

みなさんは、占いを信じますか？当てるも八卦当たらぬも八卦といわれていますね。今私が入組んでいる「ビジネス四柱推命」をご紹介します。例えば、自分とは正反対の考えの人と出会うと『なんでそうなる？』となりませんか？四柱推命は生年月日による統計学で、その人の持つ生まれた傾向性を知ることにより”適材適所“の組織作りをすることができるそうです。スムーズな人間関係を築くことはもちろん、その人の特性を生かした人事、思う存分に能力を発揮していただく環境づくりに生かされています。

(さくら地区会 水野純子 記)

写真で振り返る全研舞台裏

(株)アイワード様本社での事前収録風景



参加者全員に事前配布された会社パンフレット

当日の基地局の様子



第1分科会



第2分科会

報告者の日高香苗氏(写真左から2番目)



第3分科会



第4分科会



全体会の撮影現場



第5分科会



第6分科会

報告者の野原健志氏(写真右)



第7分科会



第8分科会

報告者の田中幸治氏(写真中央)

2021年度
全研テーマソングを
有)サウンド・オフィス・コア
菊永良枝氏より
楽曲提供して頂きました。
QRコードから
お聴きください♪



埼玉同友会
広報情報化委員

●委員長●

東 彩 齊藤壽和

●副委員長●

川 越 小田 明

埼 葛 松本賢二

中 部 矢澤潤臣

戸田・蔵 石井孝徳

●委 員 ●

川 口 福井千波

山本佳奈子

戸田・蔵 木村亮介

浦 和 三友哲哉

大森靖之

柴田大智

鈴木光義

大宮南 加藤早苗

高橋浩明

西 部 綱川めぐみ

村里忠輔

古崎千穂

鈴木一朗

宇野碧留

藤元天美

島袋輝仁

中 部

埼 葛

北 部

東 嶺 章

さくら

水野純子

彩 北 江田雅之

●制作担当●

杉込博久

印刷・製本

加藤早苗

●事務局

古川佳子

(順不同・敬称略)